

(別紙4) 平成 26 年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0870800505		
法人名	株式会社 アヴィック		
事業所名	エクセレントホーム なごみ		
所在地	茨城県龍ヶ崎市川原代町875番地		
自己評価作成日	平成26年11月30日	評価結果市町村受理日	平成27年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0870800505-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0870800505-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町字千東4637-2		
訪問調査日	平成27年1月19日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

一人一人の意思を尊重し、家庭的な雰囲気の中で安心して生活していけるよう支援している。
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>のどかな田園風景の中のお洒落なペンション風の建物の事業所である。大まかな時間配分はあるが、個別ケアを大切に、家庭的な雰囲気の中、利用者は一人ひとりのペースでゆったりとした生活リズムで過ごしている。地域交流(事業所主催の夏祭り・花火大会・運動会・ちゃんこ鍋食事会に参加呼びかけや地域主催の敬老会・触れ合い祭に参加)に努め、認知症・事業所に対する理解も深まっている。利用者は勿論、家族との信頼関係を重視し、連絡を密にとり、何でも話し合える良好な関係を築いている。一時的に職員の退職はあったが、新たな二人の管理者の想いをオープンにしたことで熱意が職員に伝わり、お互いの信頼関係が深まって働きやすい職場環境となり、休みの日でも事業所に出てくる職員が多くなっているという。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様、ご家族様の不安が無いよう安心した生活が送れるような理念に基づき実践する為、毎朝の朝礼で出勤職員全員で復唱し、理解・共有に努めている	地域密着型サービスの意義を踏まえた6つの理念を作成し、目に入る玄関や各ユニットに掲示。申し送り時に唱和し職員の意識付けを行い共有し実践に繋げている。問題があった時は理念を振り返り、再認識している。管理者からは利用者が困る前に気付ける姿勢が大切だと伝え、それに対し職員はゆったりした時間を作り、利用者が安心してその人らしく過ごせる環境を提供しているという話が聞けた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベント(花火大会、運動会等)を開催し、ボランティアや近隣住民の方々に来園して頂いたり、地域の行事等でコミュニティーセンターへ出かけ、地域の方々との交流に努めている	事業所主催の夏祭り・花火大会・運動会を開催し、近隣住民を招待して利用者・家族・地域住民共に楽しみながら参加している。12月は力士が来訪し、部屋自慢のちゃんこ鍋を作ってもらい、地域住民にも喜ばれている。区長の紹介で地域イベントに参加(敬老会・触れ合い祭)している。ボランティア(和太鼓・フラダンス・尺八・踊り・楽器を使い一緒に歌う等)を受け入れ、利用者参加型で楽しい一時を過ごしている。イベントに招待したり、参加することにより事業所や認知症に対する理解は深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	イベント等で来園された際に、認知症を理解して頂けるように努めている また、運営推進会議では社内研修で行った「認知症への理解」の資料を添付し地域の方々へ理解を求めた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2カ月に1回開催し、市担当者、地域の方々、家族の方を交えての意見交換を行い、さまざまな立場の方から貴重なご意見を頂きサービス向上に努めている。	区長・家族(全員に案内)・行政・事業所担当者の構成メンバーで2ヶ月毎に昼食を兼ねて開催している。主な議題は基本理念・一日の流れ・利用者状況・事業予定・報告である。第3者からの貴重な意見(スプリングラー・リハビリ体操・季節の行事・夜間想定訓練等)を聞く機会があり、それをサービス向上に活かしている。欠席の家族には議事録を請求書と一緒に郵送したり、玄関に置き目を通してもらい事業所の取り組みを伝えている。職員には会議等で伝達し共有している。次年度は民生委員の参加を呼びかける予定。	
5	(4)	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者と連携を図り運営推進会議や防災訓練等に参加して頂き、日頃より協力関係を築いている。	夫々の担当課(社会福祉課・高齢福祉課)・社協とは連絡を密にとり、友好的協力関係を築いている。地域密着型連絡協議会に参加し情報交換を行なっている。中学生の体験学習の場として提供。子供110番を設置し地域貢献に努めている。保育園と交流も行っており、その時は利用者の表情が一段と穏やかになる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践  代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内研修を行い身体拘束となる具体的な行為は理解しており、身体拘束ゼロに取り組んでいる。玄関の施錠に関しては安全性を考慮し日中のみの解放となっている。	年間研修の中に組み入れ、身体拘束となる行為に伴う弊害を理解しており、利用者の安全に配慮したケアの提供に取り組んでいる。混乱時には関係者と検討を重ね、家族の了承を得て拘束(ベッドの4点柵)を行なった時もあったが、原因をつき止め、現在は解消された。スピーチロック(ちょっと待って)には職員間で注意をはらっているが、すぐに利用者に説明し、了承を得る様にしている。車椅子は毎月点検している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的、心理的などの虐待がないよう職場内研修を行い学ぶ機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度の職場内研修に権利擁護に関する勉強会を取り入れているので今後は継続的に研修の機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、入居者様、ご家族様と十分に話し合い、納得、理解した上で契約の締結、解約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話連絡時に報告に加え意見や要望等を尋ねている。入居者には日々の会話の中で意向や要望を聞き、運営に反映している。又、ご意見箱を設置し意見の言いやすい環境を作っている。	意見の言い出しにくい利用者・家族に配慮し意見箱の設置・第3者機関名・電話番号を明示している。日々の会話の中や面会・電話連絡時に出た意見等(居室の整理・職員の口調の指摘)は早急に解決し、フィードバックしている。2ヶ月以上面会のない家族に対しアンケートを実施しているが、意見は余り無いのでアンケート内容の検討を行っている。職員・担当職員の異動は面会時に口頭で伝えているが、今後は広報に記載したり、リビングに写真・名前の掲示を検討中。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な定例会議を開催し職員の意見や要望を運営に反映させている。	現場での気付きはその都度検討し改善に繋げている(食事形態・利用者の状態変化の検討)。定例・全体・リーダー・ユニット会議で職員の意見を聞く時間(代表との面談もある)を設けていて活発な意見交換の場となっている。勤務体制・研修受講(受講後は伝達報告)・資格取得の整備に努め、やりがいにつなげている。職員の退職が重なったときもあるが、管理者から職員に不満等があればどんどん話して欲しいと伝えなんでもオープンにしたことで共通意識も高まった。管理者と職員の関係が密になり、お互いが認め合う関係となり、人間関係・職場環境が良好で、休みの日でも事業所に出てくる職員が多くなったらしい。3ヵ月毎の食事会の他、管理者は職員の表情・様子から異変を感じたときは声掛けを行いストレス・不満の解消に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各々が担当を持ち責任を持つ事で仕事のやりがいを持てるようにしている。又、希望に沿った勤務が出来るように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画表を基に職場内研修を月に1回実施し、知識、技術等の向上に努めている。又、職員の負担がないよう、研修時間の調整や日程を2回に分ける等の配慮を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のサービス事業所に積極的に見学に行かせて頂き同業者との交流を深め又、サービスの質向上に繋げている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の不安や要望等を傾聴し安心して頂けるような対応、説明を行いながら信頼関係を築いていけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の想いを十分に傾聴することから始め、安心して頂ける関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前にご家族様からの要望や不安を聴き取り、その時に必要なサービスを見極め両者了解のうえサービス提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の意思や想いを聴き取り自己決定に結びつけ支援している。それぞれの意思に沿った時間を過ごして頂き、楽しく生活が送れる場を提供している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に定期的に写真付きのお便りを出しご本人様の日頃の様子分かるよう支援し、協力体制を作っていけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や知人の方の来訪時には、ゆっくりと過ごして頂けるような雰囲気作りを心掛け継続的な関係が途切れないよう努めている。	家族・友人・知人の面会が多く、今までの大切な人との関係継続に努めている。なかなか来れない家族には電話（携帯持参も）・手紙（年賀状を50枚出す利用者がいる）で連絡を取り合っている利用者がいる。家族の協力を得てお墓参り・外泊・馴染みのお店（美容院・寿司店等）に出かけている。今まで通りの新聞や乳酸飲料・ヨーグルトを継続している利用者がいる。家族の中には利用者全員に声掛けを行なってくれるので、家族と他の利用者との関係も深まっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士のコミュニケーションが円滑に図れるよう、職員がクッションになり、入居者様同士の共通の話題の提供を行ったり、レクリエーションやお茶会を通じ、交流を図って頂けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了された入居者様やご家族様でも、いつでも相談に立ち寄れる環境を作れるよう心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で出来るだけご入居者様と多く会話をして入居者様の想いを組み取れるよう努めている。又、ご本人より聞くことが困難な場合にはご家族から伺い可能な限り、その方らしい生活が送れるよう努めている。	利用者の思いや意向は日々の会話から吸い上げ、ユニット会議で気づきを報告し全職員で共有・対応を行なっている。生活パターン、余暇等は本人の希望に添っている。困難な場合は家族から情報を得て職員間で検討し、利用者の表情や様子から確認し本人本位に努めている。家族と利用者の想いが違っている場合は利用者に向い利用者の想いを尊重し、家族に利用者の様子を見てもらったり説明をして了解を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご本人やご家族、関係者から情報収集を行い職員全員が把握出来るように努め意向に沿った暮らしが出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が個々の入居者を担当し、より細かく個々を理解していけるような体制をとっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンス、モニタリングを実施している。又、ケアプランが状況に応じ変更になる際には、ご家族に連絡し、意見や意向を伺っている。又、職員全員が実施出来るよう具体的なプラン内容作成に努めている。	家族・利用者から要望・意向を聞いてカンファレンスを開催し、課題とケアのあり方について担当者が中心となり検討し、ケアマネが現況に即したプランの作成し家族に説明・同意をえている。援助内容は利用者が参加できる目標となっており、モニタリング時に活用されている。状態変化時には再プランを作成している。	きちんとした目標達成となるプランとなっているが、ケース記録と連動されていないことを職員も周知し改善に向けている段階である。目標を絞り込み、それに合わせたケアの提供内容を記録に残し目標達成となることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝、夕の申し送り、ケース記録、日誌等を職員で共有し、課題がある際には改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様一人ひとりの状況を把握し、その方の望む暮らしに近づけるよう努めている。又、家族とも面会や電話等でコミュニケーションを図り、その時々ニーズに合ったサービスを提供出来るよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる定期的な訪問や地域の方から敬老会等に声を掛けて頂き参加している。又、施設としてイベントやドライブ等を企画し個々の状況に合わせて楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医、ご家族との連絡をこまめに取り、受診時には情報提供をし、本人が適切な医療を受けられるよう支援している。生活上の注意事項や観察事項の指示を受け、健康管理をすると共に異常の早期発見に努めている。	2週間ごとに協力医療機関(循環器・脳神経外科)からの往診がある。変化があれば家族に報告(往診記録・介護支援経過表に記載)を行っている事が確認された。今までどおりのかかりつけ医には家族付き添いで受診し報告を受け記録に残している。受診時は情報提供を行い、医療機関からの注意事項等の指示を受け、体調管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で看護職との関わりはないがユニット職員は日々の変化の気づきを報告、連絡、相談する体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	対象者がいる時には、入院中のお見舞いに伺い、入居者様、ご家族様が安心して療養出来るよう言葉を掛け、ご家族様や病院関係者から状況や経過を聞き取り、情報を共有しながらスムーズに退院、帰所後の適切なケアが出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所での可能な対応は説明し十分に理解した上で緊急対応希望書を取り交わしている。事業所でも出来る限りの対応に努めると共に、限界についても十分に説明し納得して頂いている。	契約時に事業所で対応可能な範囲を説明し、緊急対応希望書を取り交わし事業所で出来る最善の支援を行なっている。訪看との連携を行っていないので、医療的処置が必要となった場合は次の受け入れ先を話し合っている。今後は看取りについて職員と検討していく予定。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、周知徹底すると共に、緊急時にも速やかに対応できるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時、適切な行動がとれるよう、年に2回、入居者様と共に、避難訓練を実施している。又、地域の方々にも参加の呼びかけを行っている。	消防署指導・自主訓練を年2回実施し(夜間想定・利用者行動把握・消火器使用方法・緊急通報システム・避難経路確認等)利用者が安全に避難できる体制を構築している。避難経路をリビングからも避難できるように広いスロープを設置した。消防署からはマスクの着用と部屋の確認方法の指導を受けた。区長・民生委員と訓練を実施した。隣の家族には協力依頼内容を構築し協力体制を築いている。備蓄品は整備している。喫煙所の管理は随時・コンセントの点検を3ヶ月ごとに実施し火災に注意をしている。	家族に対し広域避難場所の周知と緊急持ち出し用品の中に、利用者の常備薬の処方箋や連絡先等のコピーが必要と考えられる。職員と何が必要か検討し整備することが望ましい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者への尊厳を常に忘れず、人権を常に意識し適切な言葉遣いに対応に努めている。	個人情報保護(肖像権を含め情報開示には同意を得ている)に努め、書類関係は鍵つきの書棚に保管している。利用者を人生の先輩として敬い、ケア提供時や言葉かけに注意をはらっていることが調査時に確認された。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる環境作りや言葉かけを行い、表現が困難な入居者様に関しては、言動からニーズを読み取り代弁出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の趣味や生活ペースを理解、把握し楽しみを持ち、安心して居心地良い生活が送れるよう支援している。活動や行事への参加は、体調や個人の意思を尊重し、起床や就寝時間もそれぞれのペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を心がけ、季節や場所に適した衣類等のアドバイスをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前にメニューの説明をし楽しみを持って頂いている。一部のメニューに注文食材を使用しバランスの取れた食事提供が出来るよう支援している。また可能な入居者様には食器拭きやテーブル拭きのお手伝いをして頂いている。	利用者の希望を聞き、嗜好や季節の食材を取り入れた献立を作っている。利用者が調理することは困難な状態であるが、テーブル拭き・食器拭き等手伝ってもらい、やりがいにつなげている。バランスを考慮して注文食材を使用し、利用者の食欲・体調管理に努めている。レクを兼ねたおやつ作り(ゼリー・プリン・茶巾・大学芋等)は利用者の楽しみとなっている。職員は休憩時間の関係で全員一緒ではないが、各テーブルに一人の職員が同席し会話のある楽しい食事風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の個々の食事、水分摂取量を記録に残し、体調管理に努めている。水分摂取量が低下している入居者様にはカルピスやその他、本人の摂りやすい飲料を把握し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じた援助法で毎食後に、口腔ケアを実施している。入れ歯の入居者様に関しては夕食後、入れ歯をお預かりさせて頂き、消毒を行い清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の失敗がないよう、声かけ、誘導を行っている。トイレでの排泄が続けられるよう下肢筋力低下にも努めている。	利用者の排泄パターン・排泄チェック表・表情・様子から察知し声掛けを行いトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行なっている。職員のきめ細かなケアの提供により、オムツからパットに改善した利用者がある。夜間オムツの方も日中はリハパン対応で支援に努めている。水分補強・散歩・運動で自然排便を促す配慮を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分に摂ることを心掛け、日常の適度な運動を促し、出来るだけ薬に頼らず、自然排便を促すよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様のタイミングに合わせ、ゆっくりと入浴出来る配慮をしている。又、入居者様と職員は1対1で入浴することで、要望や希望等を会話から読み取り支援に繋げている。	基本的に曜日・時間は決まっているが、希望があればいつでも、入浴対応可能である。拒否者はいないが、異性職員の介護に抵抗がある利用者には、同性介助で支援している。季節の菘蒲湯・ゆず湯を提供している。入浴時は本音を聞ける機会も多いので、気付きを伝達・共有しケアに活かしている。皮膚感染予防に努め、足拭きマットは個人毎に取り替えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時の状況に応じ、居室やソファで寛ぎ、休息がとれる環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病歴、内服薬の用法について理解しており、一包化により誤薬を防いでいる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の個性を活かし、状況に応じ、役割、レクリエーション、イベント、ドライブ、公共施設の見学等気分転換が図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候に応じて定期的に外気浴や散歩、ドライブ等を楽しんで頂いている。	お天気のよい日は車椅子の利用者もほぼ毎日、近場を散歩したり、野菜の収穫・前庭で外気浴を行ったり、ドライブにでかけ、五感の刺激や風を肌で感じ、季節の移ろいを感じてもらっている。イベント外出(初詣・花見等)以外に外出する機会を増やしている。家族との外出・外食を楽しみにしている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の希望がある場合には持って頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望がある際には事務所の電話を使用させて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて	共同空間は自由に使用出来る環境になっている。状況に応じて座る席を誘導し入居者様が落ち着いて過ごして頂けるよう気配りをしている。又、共有スペースや居室は毎日掃除を行い不快のないよう配慮している。	共有空間は広々しており、利用者が好きな場所でのんびり過ごしている姿が見られた。玄関やリビングに飾られた季節の手作り品(毛糸と折り紙で作った鶴・ちぎり絵の鬼)・草花(ハンジュー・シクラメン等)は利用者は勿論、訪問者を温かく迎え入れてくれる雰囲気を作っている。清潔保持に努め、清掃は随時実施している。居室入り口には了解を得て、利用者の写真と名前を掲示し混乱防止に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の落ち着く好きな場所で、テレビを見られたり、ゆったりと寛いだりされ思い思いに過ごせる居場所づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、ご家族様に可能な限り、馴染みの思い入れのある家具等を持参して頂くようお願いしている。	馴染みの品が利用者にとって安心出来ることを説明しているが、大物(ベッド・ロッカー・クローゼット)が設置されているので、余り大きくないテレビ・椅子・テーブル等を安全面に配慮し設置の他、家族の写真・時計・趣味の園芸の本・料理雑誌・愛読書・家族からプレゼントされたぬいぐるみ・草花・利用者が作成したカレンダー等を飾り、本人が心地よく過ごせるよう工夫をしている。掃除は職員が毎日実施し、出来る利用者とは一緒に清潔保持に努めている。冬場の乾燥にはぬれタオルで対応。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同の空間には障害となる物を置かない広い空間とし、自立支援を視野に入れた環境作りを心掛けている。		

(別紙4(2))

事業所名:エクセレントホーム なごみ

## 目標達成計画

作成日:平成27年3月23日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	利用者家族に対し広域避難場所の周知と緊急持ち出し用品の中に利用者の常備薬の処方箋や連絡先のコピーがなく整備不足である。	利用者家族に対し広域避難場所の周知徹底を図るとともに緊急時に備え必要持ち出し品の整備を行い緊急時に備える。	利用者家族に対して広域避難場所の周知徹底は26年度2月の運営推進会議にて報告するとともに全入居者家族に運営推進会議報告書を送付し周知していただいた。薬状と緊急連絡先のコピーは整備済。必要緊急時の持ち出し品に関しては職員と話し合い携帯ラジオ、防寒具、防災クッション、ヘッドライトを準備する予定。	1ヶ月
2	26	目標達成プランとなっているがケース記録との連動性がない。	ケアプラン内容に合わせたケア提供内容を記録に残し目標達成に繋げていけるよう支援していく。	ユニット会議でケース記録の記入方法の勉強会を行い職員にケアプランとの連動した記録の重要性を理解してもらいケアプラン内容と連動したケース記録記載方法を指導した。また、今後のケアプランはケース記録と連動しやすいよう目標を絞り込み目標達成に繋げていけるよう取り組む。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。